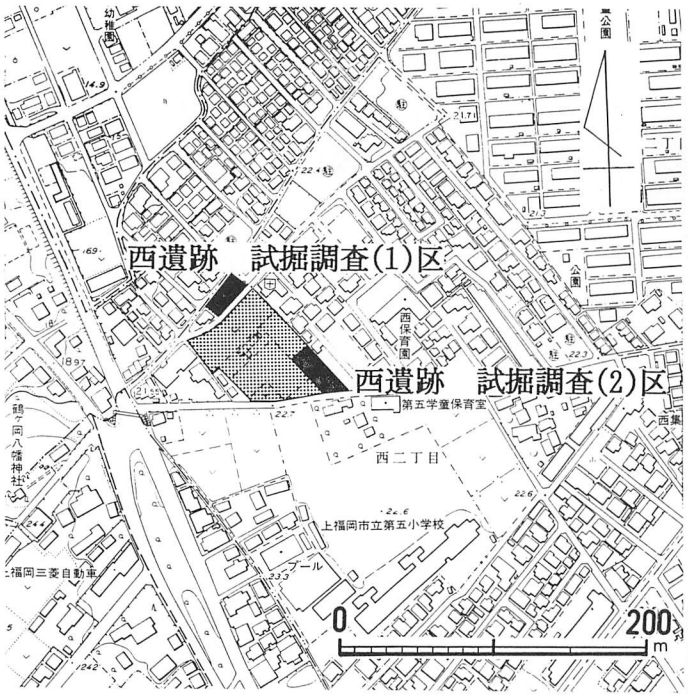
| | (遺跡名・調査の種類) | (所在地) | (調査面積) | (原　因) | (調査期間) |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 仲３丁目　試掘調査 | 仲３－１－１ | 831 | 共同住宅建設 | 4/6 ～4/14 |
| 2 | 松山遺跡　試掘調査(1) | 松山２－６－22，23 | 567 | 駐車場敷設 | 4/17～4/24 |
| 3 | 西遺跡　試掘調査(1) | 西２－1845 | 200 | 共同住宅建設 | 4/24,25 |
| 4 | 上福岡貝塚　試掘調査 | 福岡２－1500－８ | 737 | 工場棟増設 | 5/2 |
| 5 | 松山遺跡　試掘調査(2) | 松山２－４－７ | 571 | 駐車場敷設 | 5/6～5/11 |
| 6 | 松山遺跡第12次調査 | 松山２－３－11 | 393 | 個人住宅建設 | 5/12～5/20 |
| 7 | 松山遺跡第13次調査 | 築地３－２－18 | 234 | 個人住宅建設 | 5/18～5/30 |
| 8 | 松山遺跡第14次調査 | 松山２－５－17 | 432 | 個人住宅建設 | 5/21～5/30 |
| 9 | 松山遺跡　試掘調査(3) | 松山２－３－31，13 | 871.9 | 宅地造成 | 6/12～6/18 |
| 10 | 松山遺跡　試掘調査(4) | 築地１－３－17 | 998 | 共同住宅建設 | 6/3～6/11 |
| 11 | 北野遺跡　試掘調査(1) | 大原２－2079－１ | 617 | 駐車場敷設 | 6/19～6/22 |
| 12 | 滝遺跡　試掘調査 | 滝１－２－14 | 400 | 倉庫建設 | 7/6～7/8 |
| 13 | 北野遺跡　試掘調査(2) | 北野２－1809－１ | 138 | 個人住宅建設 | 8/6 |
| 14 | 福岡新田遺跡　試掘調査 | 中福岡３６２ | 998 | 共同住宅建設 | 7/17～7/22 |
| 15 | 駒林遺跡　試掘調査 | 駒林字南原３４１ | 987.6 | 共同住宅建設 | 9/16～9/18 |
| 16 | 長宮遺跡第18次調査 | 長宮２－５－３ | 914.8 | 共同住宅建設 | 10/6～12/2 |
| 17 | 松山遺跡　試掘調査(5) | 松山１－４－32 | 78.4 | 共同住宅建設 | 10/30 |
| 18 | 富士見台横穴墓　試掘調査 | 新田２－１－25 | 1112.5 | 共同住宅建設 | 11/18～12/1 |
| 19 | 西遺跡　試掘調査(2) | 西２－2068－２ | 559.2 | 共同住宅建設 | 12/3～12/9 |
| 20 | 上野台３丁目　試掘調査 | 上野台３－1504－2,1108－2 | 1915.2 | 図書館建設 | 1/12,13 |
| 21 | 長宮遺跡第19次調査 | 長宮１－２－21，35 | 467 | 駐車場敷設 | 12/17～1/22 |
| 22 | 川崎遺跡　試掘調査 | 川崎字山向９－５ | 168 | 店舗付住宅建設 | 2/18,19 |




第１図　西遺跡調査区位置図（１／5000）

西遺跡　試堀調査(1)作業風景（北より）

## II　西遺跡の試堀調査

西遺跡は，北側に川越江川が西から東方向に流れ，比高差およそ５m程の崖線になっている台地上にあって縄文時代中期の土器片が散布していることで早くから知られていた。

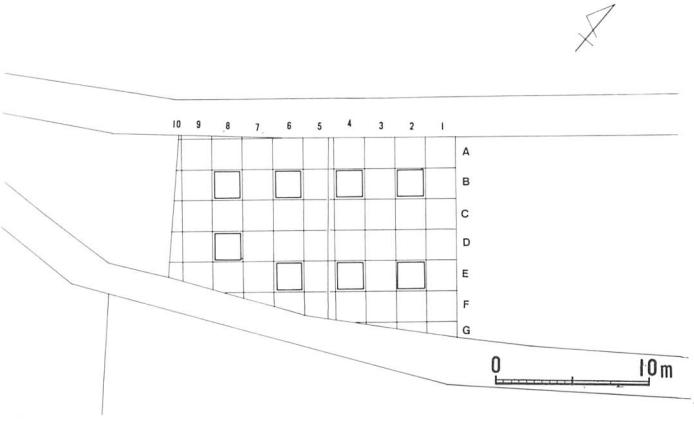
今年１月中旬からの上福岡市教育委員会による試掘調査と３月中旬から４月にかけての上福岡市遺跡調査会による本調査で縄文時代中期の前半を中心とした時期の住居跡が18基，土坑60基前後，集石17基遺構が確認された（西遺跡１次調査）。今回の試掘調査区は，２箇所とも１次調査区の隣接地であって１次調査で確認された集落跡がどこまでつづくのか確認するために行なった。

川崎遺跡　試掘調査区
川　越　市
北野遺跡　試掘調査(1)区
上福岡貝塚　試掘調査区
北野遺跡　試掘調査(2)区
滝遺跡　試掘調査区
長宮遺跡第18次調査区
長宮遺跡第19次調査区
上野台３丁目　試掘調査区
松山遺跡　試掘調査(4)区
松山遺跡第14次調査区
西遺跡　試掘調査(1)区
西遺跡第１次調査区
西遺跡　試掘調査(2)区
松山遺跡　試掘調査(2)区
松山遺跡第12次調査区
仲　試掘調査区
富士見台横穴墓　試掘調査区
松山遺跡第13次調査区
松山遺跡　試掘調査(5)区
福岡新田遺跡　試掘調査区
松山遺跡　試掘調査(1)区
松山遺跡　試掘調査(3)区
0
1000m
駒林遺跡　試掘調査区

第２図　遺跡位置図（１／20000）

●西遺跡の試掘調査（１）

当該調査区は１次調査区の道路を隔てて北側に隣接している。地目は畑地であるが，現状は，駐車場代わりに使われている雑種地である。共同住宅に転用するという開発の申請があったので事前の試掘調査が必要であると土地所有者に連絡を行なった。調査は４月24日に東側土地境界を基準にし，２ｍ間隔で北から南方向にＡ～Ｇ区，東西方向に第１～10区の方眼を設定した。Ｂ－２区より西側へ向かって１区おきに表土を除去し遺構の精査に努めながら，ローム面まで掘り下げようと試みた。Ｄ区列についても同様に１区おきに表土を掘り下げた。表土には５から10大のロームブロックが含まれており，黒味がかった粘性をもつ土，コンクリート塊や駐車場に用いられる砂利などによく似た石もまじっていた。ローム面は５cm以下のロームブロックを敷きつめたような状態になっていたり，ローム面の状況のよいところについても，遺構・遺物は確認されなかった。そのためこれ以上の調査は必要ないものと判断し，写真撮影，調査区の実測，埋め戻し，器材の撤収をおこない，すべての作業を終了したのは４月25日であった。




●西遺跡の試掘調査（２）

第３図　西遺跡　試掘調査(1)区全測図（１／500）

E区列，G区列の重複するグリッドの表土を除去し遺構の精査に努めながら，ローム面まで掘り下げた。この調査区の標準土層は，ローム面まで第２区列では約50cm，第８区列では約30cmを計り，表土は黒褐色の耕作土である。これは，西側のほうがやや標高が高いためと思われる。第10区列など一部攪乱され平均して５cm大程度のロームブロックが含まれている箇所もあった。第６次調査区のC，D，E区列にて大溝が確認されているため，その南側にあたる当調査区の第３，第４区列の表土の除去も一部行い，ローム面の精査に努めたが，溝の続きなどを含めて遺構は，一切確認されなかった。大溝は当調査区まで伸びていないか，或

第11図　上福岡貝塚・松山遺跡・滝遺跡・長宮遺跡調査区位置図（１／5000）

いは伸びていてもA，B区列で留まるものと考えられる。遺物は，主としてB区列より須恵器坏型土器の口縁部破片が数点出土している。４月24日，写真撮影，調査区の実測，埋め戻し，器材の撤収をおこないすべての作業を終了した。

●試掘調査（２）

当調査区は，第１，第２号住居跡の確認された第１次調査区の西側約100mの地点にあたる。調査は，５月６日に南西土地境界杭のうち西側の道路に接しているものを基準にして２m間隔で東側へ向かって第１～12区，同

時に旧カマドとともに壊されたか，或いは道路工事の際にカマドとともに破壊されたかのいずれかと思われる。

第８号住居跡の主な出土遺物（須恵器のみ）

| 番号 | 器　型　等 | 色　　調 | |
|---|---|---|---|
| No. 1 | 須恵器蓋の破片　20% | 黄味ががった灰白色 | |
| No. 2 | 須恵器坏　50%　　南比企系 | 灰色 | 底部周辺回転へら削り整形 |
| No. 3 | 須恵器坏　60%　　南比企系 | 灰色 | 底部周辺回転へら削り整形 |
| No. 4 | 須恵器大甕の破片？ | 青灰色 | 平行叩き |
| No. 5 | 須恵器坏　70%　　南比企系，高台付き | 灰色 | 底部周辺回転へら削り整形 |
| No. 6 | 須恵器坏　85%　　南比企系 | オリーブ灰色 | 底部回転へら削り整形 |
| No. 7 | 須恵器坏　20% | 黄味ががった灰白色 | |

る。

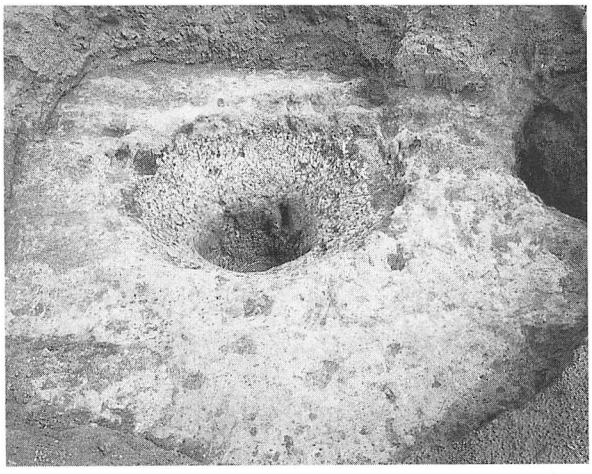
## X　松山遺跡第14次調査

今回の調査区は，第１次調査区の東隣である。そのため遺構とそれに伴う遺物を確認するために調査を行う必要があったので，開発担当業者に連絡後，５月21日に南西土地境界杭を基準にし，道路に沿った境界線を２m間隔で北側に向かって第１～９区，東側へ向かってA～I区の方眼を設定し，試掘調査を実施した。奇数区列について図のように１区おきに表土を除去し，ローム面まで掘り下げ，ローム面を遺構を確認するため精査した。

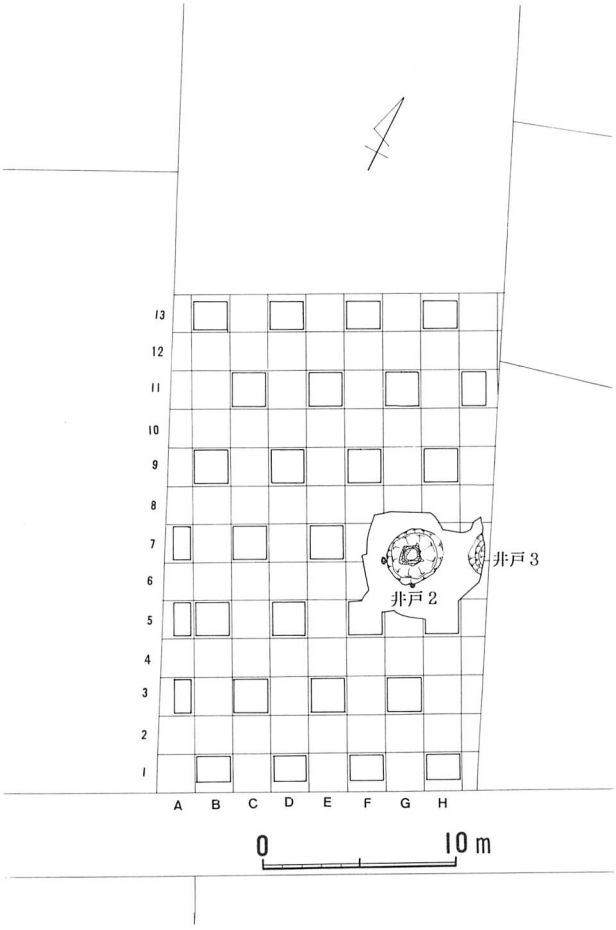
この調査区の標準土層は，ローム面まで約50cmを計り，表土は暗褐色の耕作土が約25cm続く。調査区の南側については，約25cm程のロームが攪乱されたような層が続き，ローム面に至る。調査区の北側については，黒褐色でロームブロックをぶち状に含み約25cm程でローム面に至る。

さてローム面の精査の結果，G－７区及びI－７区で遺構の覆土と思われる黒褐色土を確認した。第９区列まで試掘を終えると，さらに第13区列まで方眼の設定を延長し，１区おきに表土を除去し，ローム面まで掘り下げて，遺構を確認するための精査に努めた。試掘調査によって遺構の覆土と思われる黒褐色土を確認したのはG－７区及びI－７区のみだったので，その周囲を遺構が続くと思われる南側へ拡張した。遺構は直径３m程のいびつな円形をなしているものと，同じ規模のものであろう遺構の一部を確認した。

５月26日，円形をなしている遺構を東西方向にセク



松山遺跡第14次調査　井戸２，井戸３全景（南より）




第16図　松山遺跡第14次調査区全測図

（１／400）

ション＝ベルトを設定し，その覆土を除去していくと円錐を逆さにしたように壁面が傾斜していた。東側も覆土を除去していくと同様な壁面の変化が見られたので２つとも井戸であると推察された。始めの円形をなしている遺構を井戸２，東側の一部のみ確認したものを井戸３とした。井戸２，井戸３の調査後，調査区の実測，埋め戻し，器材の撤収をおこない，５月30日にすべての作業を終了した。

●井戸２

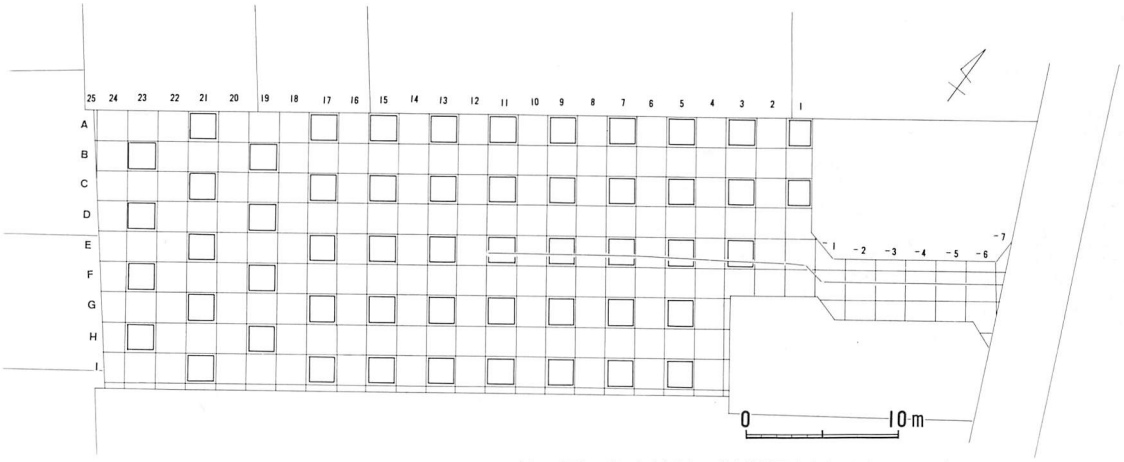
井戸２の覆土の状態は確認面より最初の90cm程はロームブロックや粒子を多く含む層と黒褐色の層が互層となって流れこんでいた。その下は粘性を含んだ灰黒色土層であり酸化鉄の粒子を含み下層へいけばいくほど水分と酸化鉄の粒子の量が増えていった。

井戸２の深さは確認面より2.2mであり，確認面での直径2.7m，確認面より90cm下の壁面が円柱状に変化する部分で直径1.1mであった。素掘りであり，木枠等を組んだ形跡はない。また周囲に上屋に伴うピットがあるか確認するため拡張を行ったが何ら見いだすことはできなかった。

主な遺物は，確認面より最初の90cm程までについては，龍泉窯系と思われる青磁碗の高台付きの底部や在地産須恵質甕の破片などが出土し，さらに110cm程で在地産軟質甕の破片が北側の壁面にそって，150cm程で同一個体とおもわれる甕の破片が上からみて覆土の中央よりやや南に傾いた位置で出土した。内面にはろくろ痕がみられ，表面にはろくろ痕の垂直方向にへらで削り整形が見られたので武蔵型の甕であろうとおもわれる。胎土は表面については暗オリーブ灰色からオリーブ灰色であり内部については明オリーブ灰色である。表面については明褐灰色のものもある。浅野晴樹氏に年代については難しいが14～15世紀くらいだろうとのご教示をいただいた。また軟質甕と同じような深さで龍泉窯系の蓮弁文のついた青磁碗の胴部破片が見つかり，小俣悟氏に元代のものであろうとのご教示をいただいた。また平行叩きの付いた在地産須恵質甕の破片，同一個体と思われる頸部から口縁部にかけての破片等も見つかった。別個体の在地産須恵質土器破片もいくつか出土している。胎土の色調は明オリーブ灰色に近い。青磁片や軟質甕の年代から室町時代半ばごろに使われていた井戸であろうと推察される。しかし同時期の生活遺構が周辺で見つかっておらず周囲の遺構，また長宮遺跡の中世遺物や付近の中世遺跡との関連性について再検討を迫られる材料となりそうである。

●井戸３

井戸３は覆土が確認面より110cm程でロームブロックや粒子を多く含む層と黒褐色の層が互層となって流れこんでいる状況を確認したに留まった。構造は井戸２に近いものと推察されるが調査できたのが西側の一部のみであるため井戸の名称も便宜的なものである。遺物は確認できなかった。



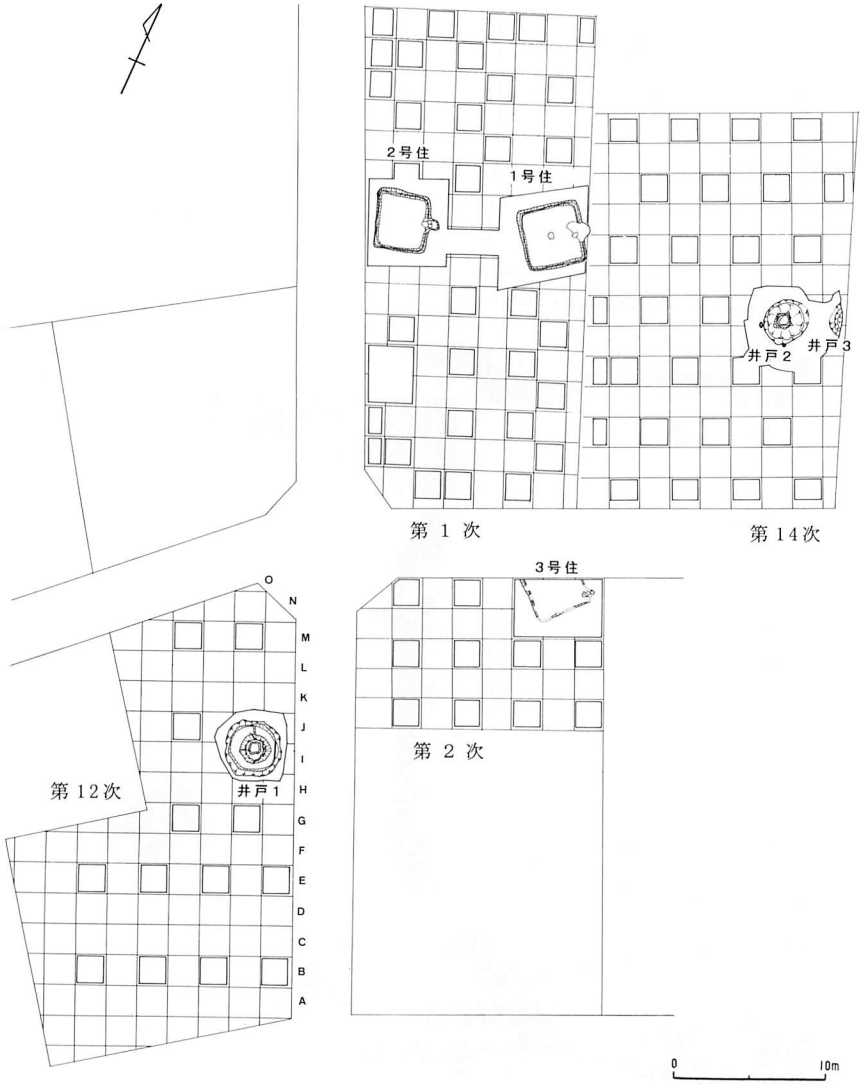

第17図　松山遺跡　試掘調査(3)区全測図（１／500）

松山遺跡　試堀調査(3)作業風景（北東より）

## ＸＩ　松山遺跡の試掘調査

●試掘調査（３）

当調査区は，松山遺跡第12次調査区の南西隣である。個人住宅と共同住宅建設のため分筆が行われるということが開発指導要綱事前協議書や農地転用についての文書で判明したので，社会教育課が，平安時代の集落跡と考えられる松山遺跡の範囲に




第８－２図　松山遺跡第１次・２次・12次・14次遺構配置図〈１／500〉

## （２）中近世の遺構と遺物

遺構としては、第10次溝１条、第11次溝１条・井戸跡１基、第14次井戸跡２基、1992年度試掘調査（４）溝・井戸跡状遺構１基、第19次溝１条が確認されている。

**松山遺跡第10次溝１**（第８－７図）

東西に走る幅約３ｍ、深さ1.2ｍの溝で、西方は第11次溝２に向かい、東端は北に曲がるようである。開き気味の箱形で、底面には粘性の黒色土が堆積し滞水していたようである。その上の層では鉄分を含む粘性の黒褐色砂質の層がみられ、一度は改修されたようである。出土遺物では近世陶磁器片がみられる（文献54）。

**松山遺跡第11次溝２**（第８－７図）

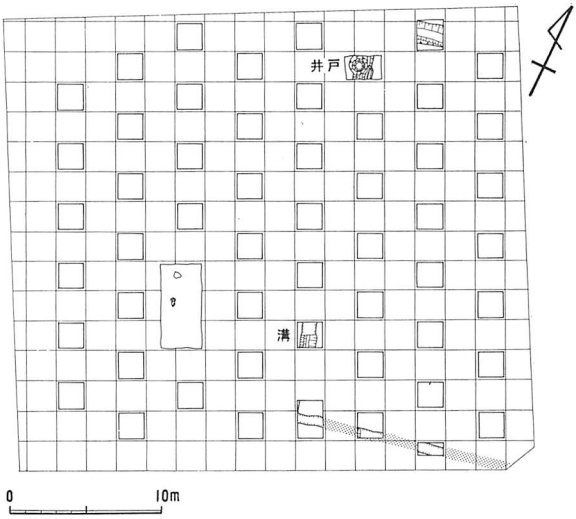
現道路に沿うように南北に走る幅約４ｍ深さ約１ｍの溝で、溝１に類似している。東寄りに改築している。出土遺物は瀬戸美濃産擂鉢等でほぼ近世後半に属する（文献54）。

**松山遺跡第14次井戸２**（第８－２図）

上径2.7ｍ、下径1.1ｍ、深さ2.2ｍでロート状。東側にも同形態と推定される井戸３がある。出土遺物は中国製青磁碗、山茶碗窯系鉢、軟質甕等で14・15世紀のものであろう（文献56）。

**松山遺跡1992年度試掘調査（４）溝**（第８－15図）

北側に東西に走る幅




第８－15図　松山遺跡1992年試掘調査（４）遺構配置図〈１／500〉